

アークフラッシュ施工された老人施設 6年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< ** > <http://www.arc-flash.co.jp> **新着施工写真を更新いたしました**

< 和歌の山引退 >

大相撲元小結の和歌の山は9月30日に引退相撲を行い断髪式を行いました。

アークフラッシュのファンであり、何処に行ってもアークフラッシュを宣伝して頂いた力士は今後、親方として後進の指導に当たります。

アークフラッシュ関連の方々も、断髪式には多数参加頂きました。ありがとうございました。



< 東京医科大学で院内感染 >

東京医科大学病院(東京都新宿区)は16日、8月から9月下旬にかけて、抗生物質が効かない多剤耐性緑膿(りよくのう)菌(MDRP)に感染したがん患者4人が死亡していたことを明らかにした。感染と死亡の因果関係は明らかでないものの、同病院では「院内感染による死亡の可能性は否定できない」として、専門家による外部調査を実施している。

同病院によると、がんで入院し8月に肺炎で死亡した40代女性のたんからMDRPを検出した。同室患者の検査で感染者は出なかったが、9月にこの女性と同室や同病棟にがんで入院していた50代女性2人が肺炎で死亡。2人の血液からMDRPが出たため詳しく調査した結果、同病棟の2患者(50代女性1人はその後がんで死亡)からもMDRPを検出した。

MDRPは台所などの水回りにある緑膿菌の一種。入院患者など免疫力が落ちている人が接触などで感染する。抗生物質などが効かないため肺炎や敗血症を発症して死亡

する場合もある。同病院では毎年15件ほどMDRPを検出していたが、散発しており、院内感染を疑わせる例はなかったという。

会見した同病院の岩本俊彦病院長は「MDRPを通常検査ですべて検出することは難しい。いずれも重いがん患者であり、感染経路や死亡との関連も含め外部調査結果を待ちたい」と話している。

<コメント>

院内感染の予防には、幾度と無く病院側にアプローチを掛けていますが、依然として発覚後のわずかな対応をするか発覚をひたすらに隠蔽するか、命の重さの重要性を勉強した先生様が、いくら東京医科大学が新宿にあるからといって歌舞伎町で飲んでくだ撒いてばかりしていないで真剣に命の大事さを我々市民に教えて頂きたい。目の前で命の軽視を恥ずかしくも無く露見しているのは何処が狂っているのだろう。事が起こってからでないしと行動しない体質と、供に、予算が着かないなどと戯言を言っている事務長が金銭感覚に明るいとして採用されている現状を、患者は知ってはいないだろうな…。

<JR東日本トランスホーテック株式会社の施工>



喫煙室にアークフラッシュ施工後点灯されたアーク電球

<インフルエンザ情報>

ジャカルタからの報道によると、インドネシア保健省当局者は20日、17日に死亡した西ジャワ州の女性(35)が鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)に感染していたことを確認、世界最多である同国の累計死者数は46人となった。

今月上旬には女性の娘(9)が同じ症状で死亡していることから、保健省は「人から人への感染が起きた可能性がある」とみている。また、女性が住んでいた村では現在、10人以上が感染を疑われており、**人間に容易に感染するようウイルスが変異した可能性も含め、同省で調べている。**

インドネシアでは5月、北スマトラ州で人から人に連鎖感染し7人が死亡している

***発行責任者:株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.com

1号~55号までを配信希望の方はメールにて申込ください。